

館林市総合計画審議会 第3回行政経営の部会 議事録【概要版】

1. 日 時 令和2年6月26日（金）午後1時30分から午後3時00分まで

2. 場 所 館林市文化会館2階 3号室

3. 出席者

【審議会委員】8名

部会長 服部覚委員、副部会長 平林恵美委員

角田好二委員、森静子委員、三田英彦委員、中村美子委員、中村喬委員、岩崎祐一委員

【策定事務局参事】13名

秘書課長、企画課長、財政課長、税務課長、納税課長、行政課長、人事課長、契約検査課長、市民協働課長、市民課長、出納室長、議会事務局次長、監査委員事務局長

【事務局】1名

企画課政策推進係 田口

4. 内 容

(1)開 会 事務局

(2)あいさつ 服部覚部会長

(3)説 明 事務局

(4)委員の意見等に対する回答

別紙1により事務局から説明。委員からの質疑なし。

(5)議 事 進行：部会長 説明：所管課長及び事務局

① 前期基本計画素案の審議

分野：市民協働

(委員の意見・質問)

・No.1の「市民活動に関する問合せ件数」だが、市民活動団体数の方が適当ではないか？
また、No.2まちづくりの活発さ、充実度についての市民満足度調査（アンケート調査）で「どちらとも言えない」と回答している方が多いが、これは無関心層が多いということではないか。この無関心層に働きかける施策が必要なのではないか？満足している、あるいはどちらかといえば満足しているという方が半数以上を目指すよう、目標値も検討できないか。

⇒ご指摘のように、市民団体の活動件数の方が適当ではないかと内部でも議論した。しかし、高齢化、少子化などの状況を勘案すると、団体数を増加させるという目標を立てることは、非常に難しい現状であり、「市民活動に関する問合せ件数」という形にした。

- ・団体の現状については、私も十分理解しているが、あえて、団体数の増加という指標を設定することも必要かと感じた。結果が伴わなくても仕方ないと個人的には感じている。これは意見として聞いていただきたい。

⇒アンケート調査に関する指標について、その内容や、年1%増加させるという目標値の設定方法等、様々なご意見があることは承知している。これまでの活動調査から、今回は満足度という調査に切り替えたため、幅広い分野ごとの満足度の調査となっている。満足度については、こういった事業を実施したから何パーセント増加するといった設定は難しく、まずは年1%の増加を目指すこととした。課題が多い場合は、後期基本計画策定時に修正することも念頭に置いている。

分野：人権の尊重

(委員の意見・質問)

- ・No.1の国際交流協会個人会員数について、現状値の234人を目標値250人と16人増加させるとのことだが、7年かけて16人というのは妥当なのか？

⇒国際交流協会個人会員数については、残念ながら減少傾向になっている。今後の高齢化等を勘案すると極端な増加は困難な状況である。ここ数年で一番会員が多かった時の250人を目標値にした。

- ・会員数を増やすことが難しいのであれば、別な指標がいいのではないかな？
- ・コンサートの開催などとても素晴らしい活動をしている団体がある。活動内容を指標にできればよいのではないかな？

⇒ご指摘の通りだと考える。団体の活動により図ることのできる指標として、No.2では国際交流関係事業の参加者数を指標にさせていただいている。

- ・コンサートが素晴らしいとのことだが、コンサートに参加していない人には素晴らしさが理解できない。イベントの参加者に満足度などのアンケートを取っても良いのではないかな？ぜひ検討してほしい。
- ・人権の問題としてはLGBTについても検討しなくてはならないと感じている。これは意見として聞いておいてほしい。
- ・今後、LGBTは大きな問題となってくるだろう。市民課での取り扱いなど検討してほしい。

分野：行政活動

(委員の意見・質問)

- ・No.1第六次総合計画アウトカム別指標達成率だが、目標の方向性に概ね合致しているとい

う指標はどの程度合致しているという意味か？数値の出し方を教えて欲しい。

⇒第五次総合計画では目標値を矢印で設定していた。現状値に対し、数値が矢印方向に上昇していた場合は「達成」とし、全指標のうちいくつかの指標が達成しているかを数値化したものが当該現状値の56.8%となっている。第六次総合計画では、目標値を設定しているので、その数値に近づいていれば「達成」ということになる。

・第六次総合計画では、目標値を設定しているので、クリアできれば「達成」ではないのか？

⇒第六次総合計画で設定している目標値は令和7年度の数値であり、単年度ごとの目標値を設定しているわけではない。このため、単年度の達成率とすると、目標値に対して順調に推移しているか否かにより達成率を算出することになる。

・令和7年度ではどうなるのか？順調に推移していれば「達成」なのか？

⇒令和7年度は明確な目標値を設定しているので、クリアできなければ達成とならない。

・現状値が56.8%で、目標値が56.8%以上となっているが、最終結果が同数値（56.8%）でも「達成」となるのか？（「以上」だと同数も含まれるため）

⇒目標値について検討する。

・現状値と目標値の差を年度で除すれば、単年度の達成率を算出しやすいのではないかと？そうでないと、中途の年度と最終年度の差が大きくなる可能性がある。

⇒単年度の達成率算出方法について検討する。

・No.3 経常収支比率について、96.8%という数値は、近隣の他市と比較してどうなのか？見劣りしない数値なのか？

⇒現状値の96.8%は群馬県12市中下から3番目の数値となっており、残念ながらあまりよくはない数値である。目標値の94.5%は群馬県の平均値となっている。

・No.2の行政改革大綱の取組状況割合、No.4の資金調達総合計額についても説明をお願いしたい。

⇒本市では令和元年度まで第六次行政改革大綱に基づき、各推進計画を実施していた。その推進計画の実行率が85%であり、今年度から実施している第七次行政改革大綱は全計画の実行率を上回るような形で目標値を設定した。

⇒(No.4について) 資金運用については税外収入として、基金の運用をしており、運用により自主財源を確保しようとするもの。申し訳ないが、現状値について修正をお願いしたい。資金運用の数値に切手販売等も含まれていたため、修正をお願いしたい。(切手の

販売は市民に積極的にアピールするものではないため。) 現状値は600万円ではなく、500万円としたい。

分野：情報の共有

(委員の意見・質問)

- ・No.1のホームページへの掲載記事数について、「閲覧数」を記載するべきではないか。また、No.2のSNSへの投稿記事数については、ツイッターに限定しているようだが、SNSの世界は淘汰も早いので、ツイッターに限定しないほうが良いのではないか？

⇒ツイッターは市の公式と市長の公式ツイッターを運営しているが、ご指摘の通り修正するか検討したい。

- ・SNSの年間記事数だが、現状値336件に対し、目標値350件はあまりに少ないのではないか？

⇒内部で検討してきたのだが、投稿は件数ではなく内容との思いもあり、1日1投稿し、拡散していただくこととして設定したが、ご指摘の通り目標件数については再検討したい。

- ・SNS等の閲覧数を検討していただけるとのことだが、これは市民に見ていただきたいのか、それとも市外の方に発信したいものなのか？

⇒「情報の共有」という分野としては市民の方に情報をお届けするという意味合いが強いが、観光情報や関係人口を増やそうとするための情報については市外の方にも発信していきたいと考えている。

- ・SNSを通じて、どの程度情報発信できているのかデータを取ることも必要だと思う。
- ・情報発信については、量も必要かもしれないが質が重要。発信する内容が向上しないと閲覧数は上がらない。重要な情報を加工し、市民に分かりやすく情報発信して欲しい。
- ・館林市の強み弱みなどSWOT分析して、情報提供いただけたらいいと思う。
ツイッターに拘らず、様々なツールがあっても良いのではないか。
- ・ホームページやSNSなどは秘書課の職員が対応しているのか？秘書課の中にはプロフェッショナルな方はいるのか？

⇒秘書課に秘書係と広聴広報係と2係があり、広聴広報係の若い職員が担当している。

ホームページについては今年度システムの入替を予定しており、各課でもページの更新が図れるようにしたいと考えている。

- ・多文化共生という意味では、目で見て分かりやすいホームページを作っていただきたい。

⇒現在、システムの変更を実施しているところだが、プロポーザル方式により業者の選定を実施することとしており、デザイン性なども重要視したいと考えている。

・指標の質問ではないが、事務局にお尋ねしたい。6月の市議会で総合計画基本構想の議決に関する条例が提案され可決されたが、どういった内容のものなのか？

⇒これまで、総合計画の基本構想は地方自治法により議会の議決を得ることとされていたが、法改正により議決するか否かは各自治体の判断に委ねられることになった。このため、本市では皆様にご審議頂いている基本構想を議決案件とするため、議案を上程し、可決頂いたところである。

・地方自治法で議決する必要がないことになったということは、総合計画の内容は各自治体の独自性が許されることになったということか？

⇒地方自治法には議決案件として、細かい規定はなく、地方自治体の自主性に任されている。

② 総合戦略の素案の審議

分野：情報の共有

(委員の意見・質問)

- ・ p 8 の情報共有の KPI については、ホームページと SNS 関係の指標であり、総合計画の指標と重複しているため、こちらも再検討いただきたい。
- ・ 「国及び市の4つの基本目標」の考え方についてだが、国は「地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる」としており、群馬県では東京圏への依存脱却をうたっている。館林市の考え方との整合性はどうか？

⇒本市の基本目標は国の基本目標を基本としているが、ご指摘の通り、国では「地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる」としております。そこで、本市では、「本市とのつながりを築き、新しい人の流をつくる」とし、東京圏から本市への移住者の増加を目指し、東京一極集中を是正しようとするもの、国、県と整合を図っている。

分野：行政活動

(委員の意見・質問)

- ・ 館林市の「売り」を何にするのか、コロナウイルスの騒ぎで改めて分かったことだが、地方分散のチャンスでもある。館林市は東京に通勤することも十分可能であり、自然もある。また、埋もれている資源を再発掘することが重要。その他にも、例えば、教育においてオンライン化が進んでいるとか、観光用のバス路線を走らせるとか、子育てママへの支援が充実しているとか、高齢者に優しいまちだとか、そういったものを売りにしていく必要がある。他の部会にも関係することであり、行政で言えば全庁的に関係することだが、前期基本計画の計画期間中に集中的に実施して欲しい。

- ・中高年は時間を上手に使いたいと考えている。館林市は食のツアーも考えられるし、里沼を使った誘客など、東京からの距離もちょうどよく、売りが多いと思う。
- ・K P Iに追加する指標として、I C Tの推進を数値化することは難しいのか。また、他市の事例などを参考にして取り入れて欲しい。
- ・インドの事例で申し上げると、上下水道などのインフラ整備は整っていないが、通信インフラの整備や天才教育など特化した施策を実施している。そういった国の出身者が世界中で社長になり、やがて祖国へ帰って貢献している。やはりI C Tの推進は重要な施策であり、戦略に入れると市の売りになる。I C Tの進化は著しく、ローラーワンなどの技術では、ボタン電池一つで数年微弱電流を流せるようになり、老人の見守りや不審者の見張りなどに役に立つ。自分は農業にもチャレンジしているが、次々に新技術が導入されている。また、東京は子育てしにくく、合計特殊出生率も低い、富山とか福井県などが合計出生率が高い。館林市は東京に近い田舎として、子育てしやすいまちを目指すべき。

③ 基本構想基本目的（案）の審議

資料5により事務局から説明。会議時間の都合により、意見がある場合は次回会議までに事務局へ報告することとなった。

④ 次回の部会開催の日程調整

【事務局より】

次回の部会は7月22日（水）午後1時30分から開催予定。

後日正式通知を発送する。

5 閉会